令和３年５月７日　北海道新聞
（朝刊/１５面/地域の話題）
多喜二祭について

「多喜二祭」今年は来月5日

実行委高齢化 厳冬の墓参厳しく

墓建立の日近くの週末に

小樽ゆかりのプロレタリア作家小林多喜二（1903～33年）をしのび、命日の2月20日に毎年開かれてきた今年の「多喜二祭」について、実行委が6月5日に行うことを決めた。メンバーが高齢化し、厳寒期の墓参が難しいとして開催時期の6月変更のみ決めていたが、墓が建った6月2日に近い週末で決着した。

当日は奥沢墓地（奥沢5）で墓前のつどいを午後1時から開催。その後、記念のつどいを午後5時半から小樽市民センター・マリンホール（色内2）で行う。バイオリンなどによるコンサートと小樽商科大の高野宏康学術研究員による講演を予定する。

多喜二は秋田県生まれ、小樽育ち。小樽高商（現小樽商大）を卒業後「蟹工船」などの小説を発表。上京後の29歳時、特高警察に治安維持法違反の疑いで逮捕、拷問を受け亡くなった。

実行委の大地（おおち）厳事務局長は「新緑の季節で墓地も行きやすい。多喜二の生涯をいま一度考える機会にしてほしい」としている。

記念のつどいは定員225人で前売り制。チケットは1500円で、小樽運河プラザ内の喫茶1番庫とマリンホールで取り扱っている。問い合わせは大地さん☎080・6099・1815へ。

（平田康人）